

# 平成30年度 定時総会および講演会

日 時:平成29年6月22日(金)

場 所:銀座貿易ビル6階(東京都中央区)

会員総数:81名 (正会員:60名 賛助会員:21名)

会員数	出席数	委任状	議決権総数
正 会 員(議決権有)	25	27	52
賛助会員(議決権無)	7	—	—

★ご来賓 林野庁木材利用課 課長 玉置 賢 様 他2名

★関係機関および報道各社

(株)日本住宅新聞社、(株)林経新聞社、(株)農経新報社、(株)日刊木材新聞社、(株)日本林業調査会



林野庁木材利用課 課長 玉置 賢 様 ご挨拶





## 平成 30 年度総会のご挨拶

本日はお忙しい中、また遠路お越しいただきありがとうございます。

私が会長職を熊崎前会長からお引き受けしたのが一年前で、私の至らない点は多々あり、この間いろいろな課題もありましたが、関係各位のお力添えで何とか本日に至りましたことに、ご支援くださった皆様方に改めて感謝を申しあげる次第です。

日本のペレット生産もここ数年伸び悩んでおり、海外の輸入ペレットに大きく後れを取っているのが現状です。この中で今年あたりから FIT 制度を背景に、発電用のペレット、すなわち石炭混焼用ペレットの生産やペレットによるガス化発電の計画が進み始め、これらが国内の生産量を押し上げているという状況です。

この一年間で当協会が目指したのは、ペレットの需要拡大、情報発信、品質価格の浸透と認証工場の拡大と言ったところが柱でしたが、これらの活動については、ようやく体制が固まってきたという段階で、今年度以降も引き続きこの目標を目指していきます。

この中で特筆するのは、ペレット品質規格が農水省の JAS 国家規格を目指すことになり、外部の学術研究者や利害関係者などにお集まりいただき、当協会が中心になって案の検討と取りまとめを行っています。JAS 規格の基本は、世界規格である ISO 規格をベースとするもので、よりグローバルな中で通用する規格を目指しています。

まだまだ日本のペレットの業界は厳しい状況が続いており、欧州のレベルになるためには改革と時間が必要であると感じています。これからも新たなペレット社会の構築を目指すために、皆様方のより一層のご支援ご鞭撻をお願いしたいと存じます。

以上、私の総会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2018 年 6 月 22 日

会長 岡本利彦

### ・山田事務局長による

【第 1 号議案】平成29年度事業報告並びに収支決算報告

### ・中川監事による監査報告

【第 1 号議案】は満場一致で承認されました。

### ・山田事務局長による

【第2号議案】平成30年度事業計画(案)並びに収支予算説明

【第2号議案】は満場一致で承認されました。



総会は、滞りなく終了いたしました。

## 講演会

### 講演1 「木質バイオマスのエネルギー利用について」

講師 農林水産省 林野庁林政部 木材利用課 課長 玉置 賢 氏



### 講演2 「現在使われている木材の乾燥方法」

講師 燃料用優良木質ペレット認証審査委員会委員長 東京大学大学院教授 信田 聡 氏



### 講演3 「日本における木質ペレット製造業の現況」

講師 ペレット協会需要拡大部会部会長 協会理事 有限会社内藤鋼業 代表取締役 内藤 昌典 氏



## 懇親会

山後理事の司会にて、山本副会長のご挨拶で開始し、終始和やかな雰囲気の皆様は歓談されていました。



河野理事による〆で無事終了いたしました。

日刊木材新聞

2018年(平成30年)6月28日 木曜日



JAS化にも賛意を示した岡本会長

国産伸び悩む

ペレット協会

日本木質ペレット協会(岡本利彦会長)は22日、東京都内で総会を開いた。

岡本会長は「国内生産量は年間12万トンほどで伸び悩んでいるが、輸入は発電用を主体にして大きく増えている。国産は出遅れたが、石炭海運用やガス

化発電向けに国産生産量を押し上げる動きもあり、今後に期待している」とあいさつした。会員数(昨年度末時点)は81(正会員60、賛助21)で、前年度末比1減となった。今年度事業計画では会員増強と優良木質ペレット認証の拡大、積極的な部会活動(品質規格、広報、需要拡大)などが了承された。品質規格部会ではJAS規格化の実現に向けて引き続き活動する。

林政ニュース

2018(平成30)年7月4日

◆品質規格のJAS化推進—木質ペレット協会(岡本利彦会長)は、6月22日に定時総会を開催。岡本会長は、「国内のペレット生産はここ数年、年間12万トンというレベルで伸び悩んでいるが、発電用の輸入ペレットは大きく伸びている」と述べた後、「この1年間は、ペレットの品質規格を農林水産省のJAS規格にすることを目指した」と報告。「JAS規格は、世界の標準規格であるISOをベースとするものであり、よりグローバルな中で国産ペレットが通用していくようにしたい」と意欲を語った。

需要拡大と情報発信

30年度の定時総会 バイオマスサミットを共催

日本木質ペレット協会

一般社団法人日本木質ペレット協会(JPA・岡本利彦会長)は6月22日、都内銀座貿易ビルにて平成30年度定時総会並

びに講演会を開催した。総会では、第1号・平成29年度事業報告並びに収支決算報告、第2号・平成30年度事業計画(案)の冒頭、岡本会長が



定時総会で挨拶する岡本会長

の拡大の3つの柱を今後も継続して取り組んでいくことを確認した。今後の協会の動きとしては「これまで、ペレットの品質規格をJAS規格にすることを目指してきた。外部の学術経験者や関係者を集め、協会が中心となって案の検討を取りまとめている。JAS規格は、基本は世界規格であるISO規格をベースとしており、国産ペレットがよりグローバルに通用することを目指す」と説明した。その後、講演会の講師でもある林野庁の玉置賢・木材利用課長の来賓祝辞に続き、岡本会長を議長に選出して一連の議案を審議し、今年度の活動内容などを決めた。

5日には同協会が共催する「地方創生バイオマスサミット」が、東京都千代田区のイイノホールにて開催される。岡本会長は「同サミットは、市町村自治体を中心とした全国的なサミットである。地域ごとのバイオマスを起爆剤とした、地方創生を一体となって実現していきたい」とサミット成功への期待を込めた。